

2022年4月27日  
株式会社日本政策金融公庫

# 新型コロナウイルスの感染拡大により 持ち直しの動きに足踏みがみられる 生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2022年1～3月期）

（前回）新型コロナウイルスの影響により 依然として厳しいものの持ち直しの動きがみられる

## <業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が32.7ポイント拡大し、▲54.9となった。
- 来期は、マイナス幅が35.6ポイント縮小し、▲19.3となる見通し。

## <売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期からマイナス幅が7.7ポイント拡大し、▲40.0となった。
- 来期は、マイナス幅が16.6ポイント縮小し、▲23.4となる見通し。

## <採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が11.7ポイント拡大し、▲48.0となった。

## <経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「顧客数の減少」が71.7%、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が34.8%となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（[https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu\\_kekka\\_m\\_index.html](https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html)）。

## <お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：和知、青木）  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

## 【調査の実施要領】

調査時点	2022年2月中旬		
調査方法	郵送調査		
調査対象	生活衛生関係営業 3,290 企業		
有効回答企業数	3,126企業（回答率 95.0%）		
（業種内訳）	飲食業	1,407 企業	映画館 60 企業
	食肉・食鳥肉販売業	159 企業	ホテル・旅館業 182 企業
	氷雪販売業	55 企業	公衆浴場業 113 企業
	理容業	423 企業	クリーニング業 259 企業
	美容業	468 企業	

## 【本調査における留意事項】

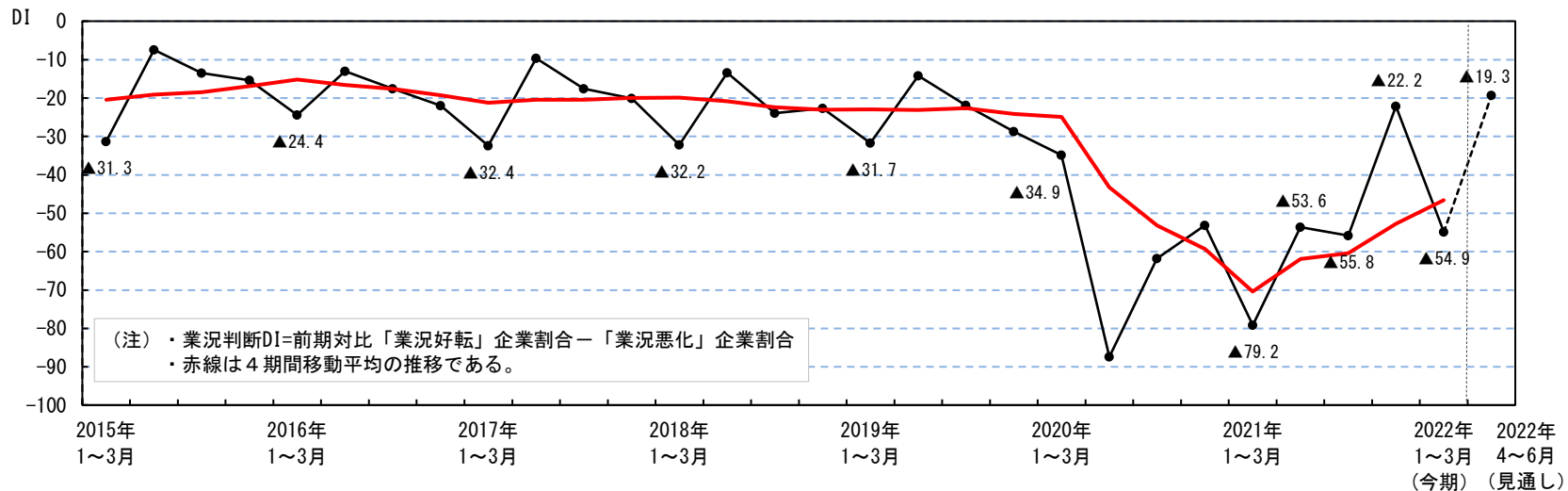
- 2016年4～6月期調査から沖縄県の企業を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

# I 景気の動向

## 1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が32.7ポイント拡大し、▲54.9となった。
- 来期は、マイナス幅が35.6ポイント縮小し、▲19.3となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)	2022年 4～6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 52.3	▲ 46.6	▲ 46.8	▲ 12.0	▲ 35.8	▲ 19.5
氷 雪	▲ 96.4	▲ 74.1	▲ 70.7	▲ 24.1	▲ 52.7	▲ 12.7
理 容	▲ 72.0	▲ 36.6	▲ 36.9	▲ 33.6	▲ 52.2	▲ 19.4
美 容	▲ 71.3	▲ 41.4	▲ 42.2	▲ 27.8	▲ 48.7	▲ 24.6
映 画 館	▲ 84.7	▲ 52.4	9.7	▲ 42.9	▲ 20.0	8.3
ホテル・旅館	▲ 91.6	▲ 65.4	▲ 49.5	▲ 5.4	▲ 53.3	▲ 1.1
公衆浴場	▲ 44.0	▲ 49.1	▲ 40.7	▲ 13.4	▲ 25.7	▲ 18.6
クリーニング	▲ 87.6	▲ 22.0	▲ 74.8	▲ 35.7	▲ 71.8	▲ 21.2

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

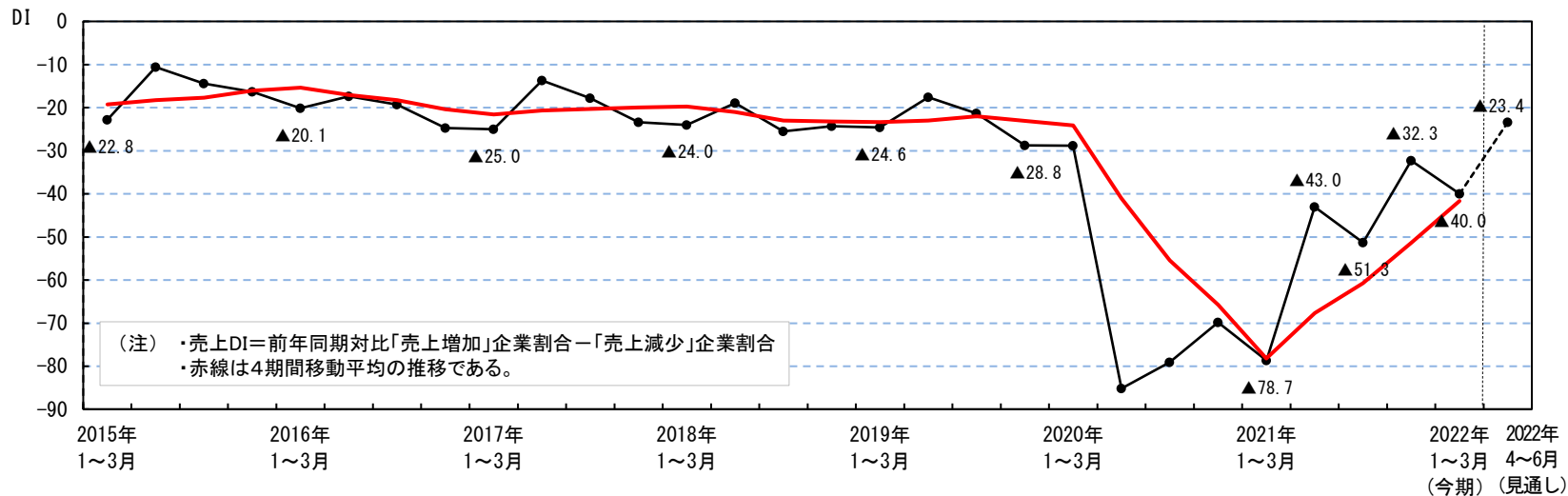
凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)	2022年 4～6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 85.4	▲ 67.3	▲ 67.8	▲ 17.3	▲ 60.8	▲ 21.0
そば・うどん	▲ 82.7	▲ 49.1	▲ 61.1	0.0	▲ 52.6	▲ 26.0
中華料理	▲ 83.6	▲ 66.7	▲ 71.3	▲ 12.1	▲ 62.7	▲ 25.5
す し	▲ 84.9	▲ 69.3	▲ 70.7	▲ 14.5	▲ 56.0	▲ 13.1
料 理	▲ 91.2	▲ 74.5	▲ 67.9	▲ 18.1	▲ 59.2	▲ 20.0
喫 茶	▲ 79.5	▲ 49.7	▲ 62.0	▲ 25.0	▲ 58.8	▲ 21.9
社 交	▲ 91.8	▲ 86.9	▲ 79.6	▲ 40.0	▲ 74.7	▲ 26.3
その他飲食	▲ 85.2	▲ 69.6	▲ 64.9	▲ 14.3	▲ 60.7	▲ 18.1

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

## 2. 売 上

- 売上DIは、前期からマイナス幅が7.7ポイント拡大し、▲40.0となった。
- 来期は、マイナス幅が16.6ポイント縮小し、▲23.4となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月	2021年 10~12月	2022年 1~3月 (今期)	2022年 4~6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 51.0	▲ 46.0	▲ 50.0	▲ 23.4	▲ 20.1	▲ 15.1
氷 雪	▲ 94.6	▲ 65.5	▲ 67.2	▲ 43.1	▲ 40.0	▲ 12.7
理 容	▲ 68.5	▲ 35.5	▲ 37.9	▲ 32.7	▲ 36.9	▲ 29.1
美 容	▲ 70.3	▲ 21.9	▲ 41.2	▲ 28.6	▲ 40.3	▲ 30.9
映 画 館	▲ 93.1	▲ 6.6	4.8	▲ 36.5	▲ 15.0	6.7
ホテル・旅館	▲ 93.8	▲ 29.9	▲ 45.4	▲ 28.6	▲ 25.4	1.1
公衆浴場	▲ 50.5	▲ 47.3	▲ 29.2	▲ 20.5	▲ 15.0	▲ 19.5
クリーニング	▲ 80.2	▲ 36.7	▲ 50.4	▲ 50.6	▲ 52.5	▲ 32.0

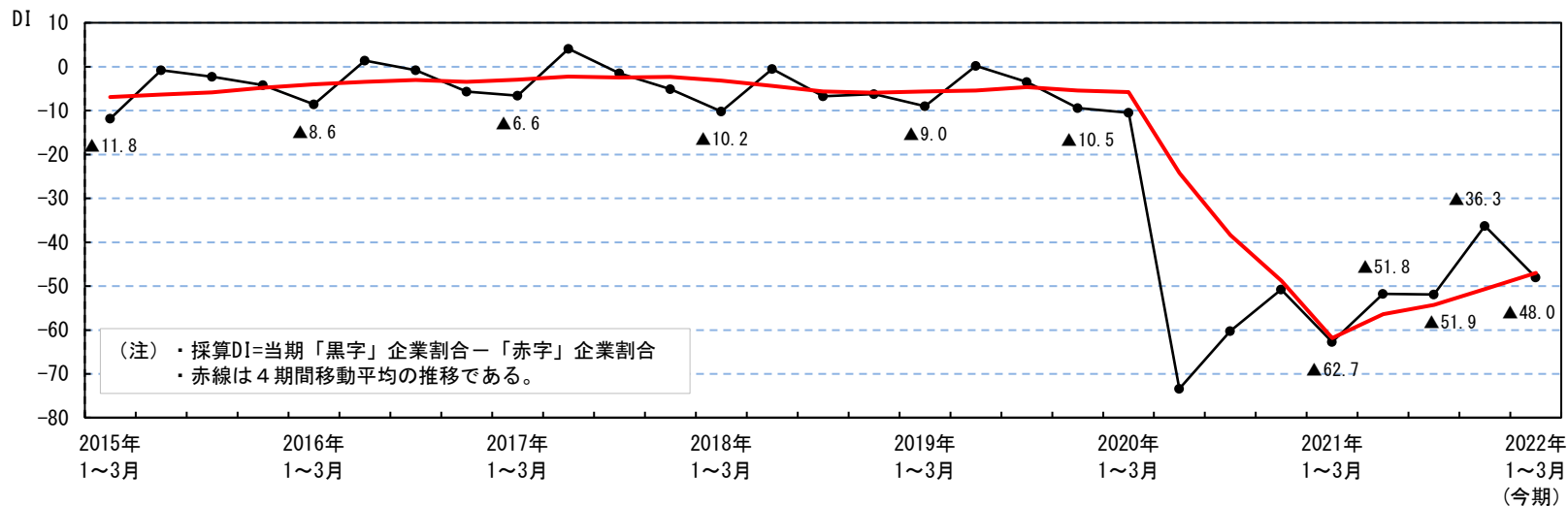
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月	2021年 10~12月	2022年 1~3月 (今期)	2022年 4~6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 86.3	▲ 55.0	▲ 63.3	▲ 31.7	▲ 45.8	▲ 23.7
そば・うどん	▲ 79.3	▲ 21.7	▲ 51.4	▲ 21.5	▲ 36.4	▲ 28.9
中華料理	▲ 79.4	▲ 53.9	▲ 65.0	▲ 27.4	▲ 56.2	▲ 24.8
す し	▲ 81.5	▲ 52.3	▲ 64.9	▲ 28.3	▲ 36.6	▲ 18.3
料 理	▲ 95.2	▲ 71.6	▲ 60.8	▲ 30.7	▲ 49.2	▲ 21.5
喫 茶	▲ 82.5	▲ 47.5	▲ 50.9	▲ 29.4	▲ 42.1	▲ 22.6
社 交	▲ 98.5	▲ 70.7	▲ 80.1	▲ 52.1	▲ 59.7	▲ 37.6
その他飲食	▲ 87.2	▲ 60.5	▲ 64.9	▲ 31.0	▲ 43.8	▲ 18.4

### 3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が11.7ポイント拡大し、▲48.0となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲26.5	▲22.7	▲26.9	▲13.3	▲23.3
水雪	▲83.9	▲82.8	▲75.9	▲58.6	▲70.9
理容	▲37.9	▲20.8	▲18.5	▲15.1	▲23.4
美容	▲45.7	▲28.3	▲27.0	▲20.7	▲28.2
映画館	▲81.4	▲73.0	▲66.1	▲73.0	▲63.3
ホテル・旅館	▲88.8	▲84.6	▲78.3	▲53.0	▲69.8
公衆浴場	▲29.4	▲28.2	▲24.8	▲8.0	▲16.8
クリーニング	▲74.4	▲33.0	▲52.7	▲47.9	▲61.0

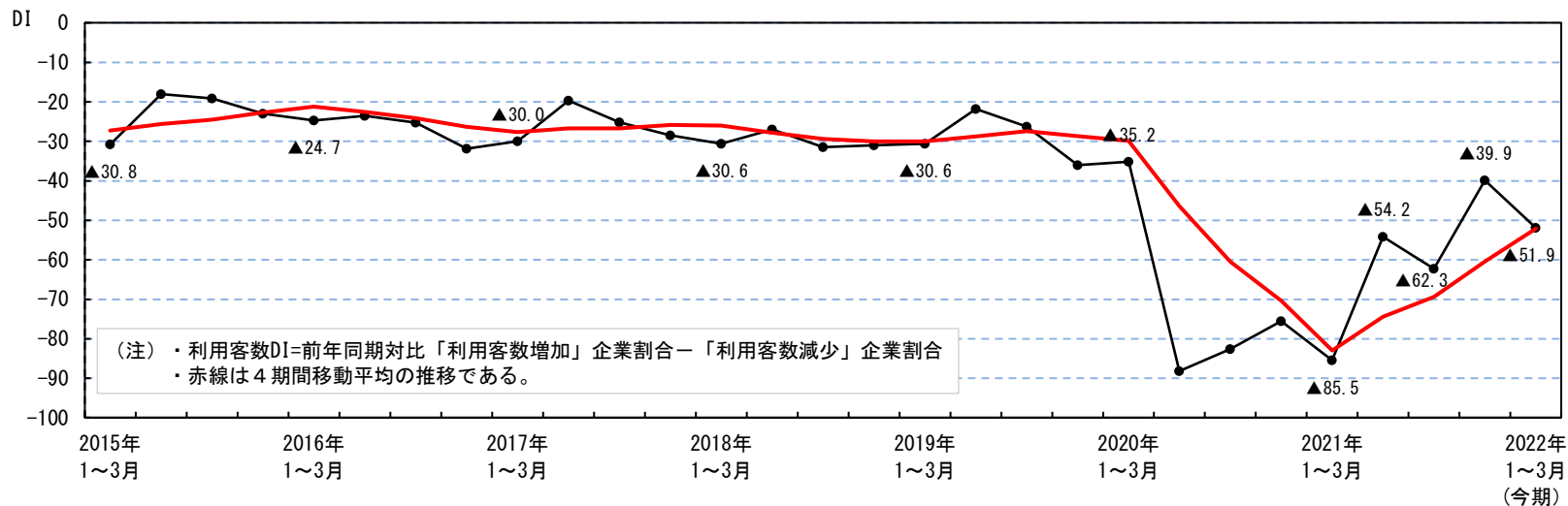
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	▲75.2	▲70.7	▲70.0	▲45.7	▲60.6
そば・うどん	▲62.6	▲52.0	▲52.6	▲24.9	▲48.6
中華料理	▲68.5	▲64.2	▲60.0	▲35.7	▲54.2
すし	▲70.4	▲67.0	▲75.9	▲42.2	▲52.6
料理	▲91.2	▲84.4	▲75.6	▲55.1	▲71.5
喫茶	▲68.3	▲52.8	▲56.6	▲41.5	▲53.8
社交	▲87.2	▲89.5	▲89.0	▲70.5	▲78.0
その他飲食	▲77.5	▲76.2	▲73.5	▲46.8	▲62.6

#### 4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期からマイナス幅が12.0ポイント拡大し、▲51.9となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月	2021年 10~12月	2022年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 43.2	▲ 41.7	▲ 43.6	▲ 24.1	▲ 34.0
水 雪	▲ 94.6	▲ 86.2	▲ 82.8	▲ 58.6	▲ 63.6
理 容	▲ 75.8	▲ 42.3	▲ 45.8	▲ 43.1	▲ 52.0
美 容	▲ 81.9	▲ 40.8	▲ 54.7	▲ 44.3	▲ 54.3
映 画 館	▲ 93.1	▲ 3.3	6.5	▲ 42.9	▲ 13.3
ホテル・旅館	▲ 97.7	▲ 48.7	▲ 53.6	▲ 29.2	▲ 37.0
公衆浴場	▲ 62.4	▲ 53.6	▲ 46.0	▲ 23.2	▲ 26.5
クリーニング	▲ 92.6	▲ 46.2	▲ 71.4	▲ 59.7	▲ 63.3

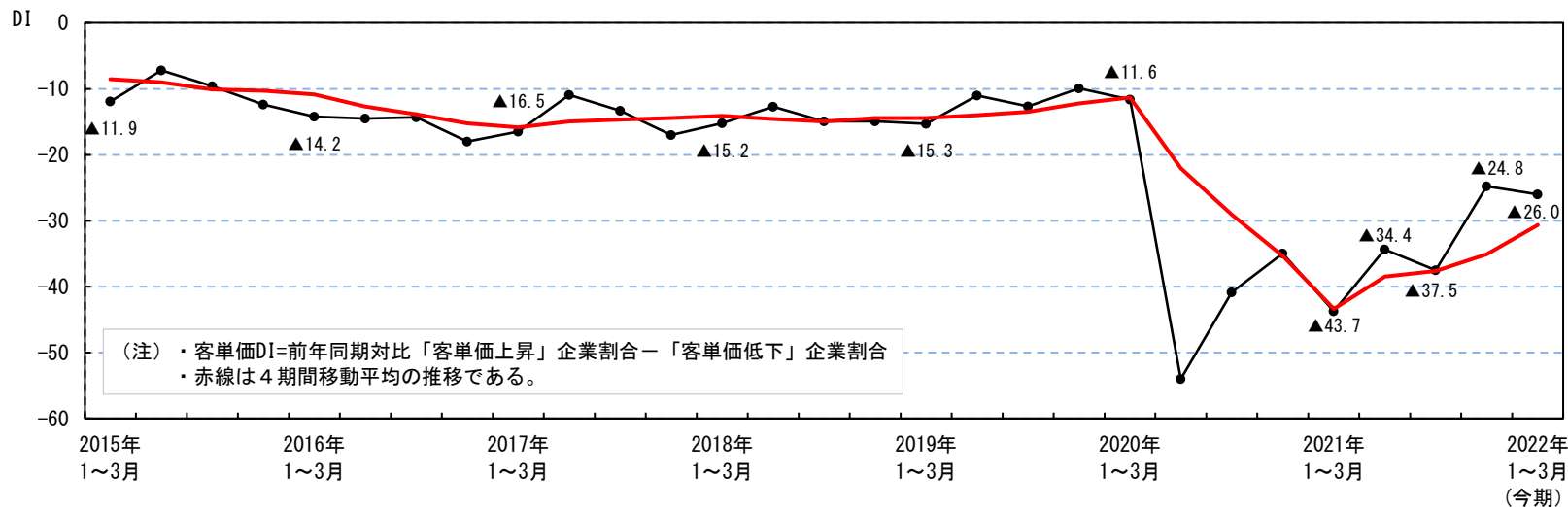
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月	2021年 10~12月	2022年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 92.4	▲ 66.6	▲ 74.8	▲ 37.3	▲ 56.2
そば・うどん	▲ 87.7	▲ 43.4	▲ 64.6	▲ 27.7	▲ 45.1
中華料理	▲ 92.1	▲ 66.1	▲ 81.3	▲ 36.3	▲ 66.0
す し	▲ 92.1	▲ 72.2	▲ 75.9	▲ 36.4	▲ 55.4
料 理	▲ 95.2	▲ 70.9	▲ 73.1	▲ 33.6	▲ 60.0
喫 茶	▲ 85.6	▲ 54.3	▲ 62.4	▲ 39.9	▲ 59.1
社 交	▲ 99.0	▲ 81.7	▲ 89.0	▲ 60.0	▲ 64.0
その他飲食	▲ 93.2	▲ 70.4	▲ 74.9	▲ 32.2	▲ 51.7

## 5. 客単価

○ 客単価DIは、前期からマイナス幅が1.2ポイント拡大し、▲26.0となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 37.4	▲ 33.7	▲ 39.7	▲ 26.6	▲ 25.8
水 雪	▲ 69.6	▲ 53.4	▲ 62.1	▲ 50.0	▲ 47.3
理 容	▲ 35.1	▲ 20.6	▲ 21.0	▲ 20.5	▲ 22.7
美 容	▲ 35.6	▲ 25.1	▲ 25.0	▲ 18.6	▲ 19.7
映 画 館	▲ 36.2	▲ 9.8	0.0	▲ 14.3	▲ 3.3
ホテル・旅館	▲ 44.1	▲ 40.6	▲ 32.8	▲ 24.3	▲ 9.9
公衆浴場	▲ 29.4	▲ 24.5	▲ 22.1	▲ 7.1	▲ 12.4
クリーニング	▲ 75.6	▲ 47.7	▲ 62.2	▲ 55.5	▲ 55.6

図表15 飲食業 客単価DIの推移

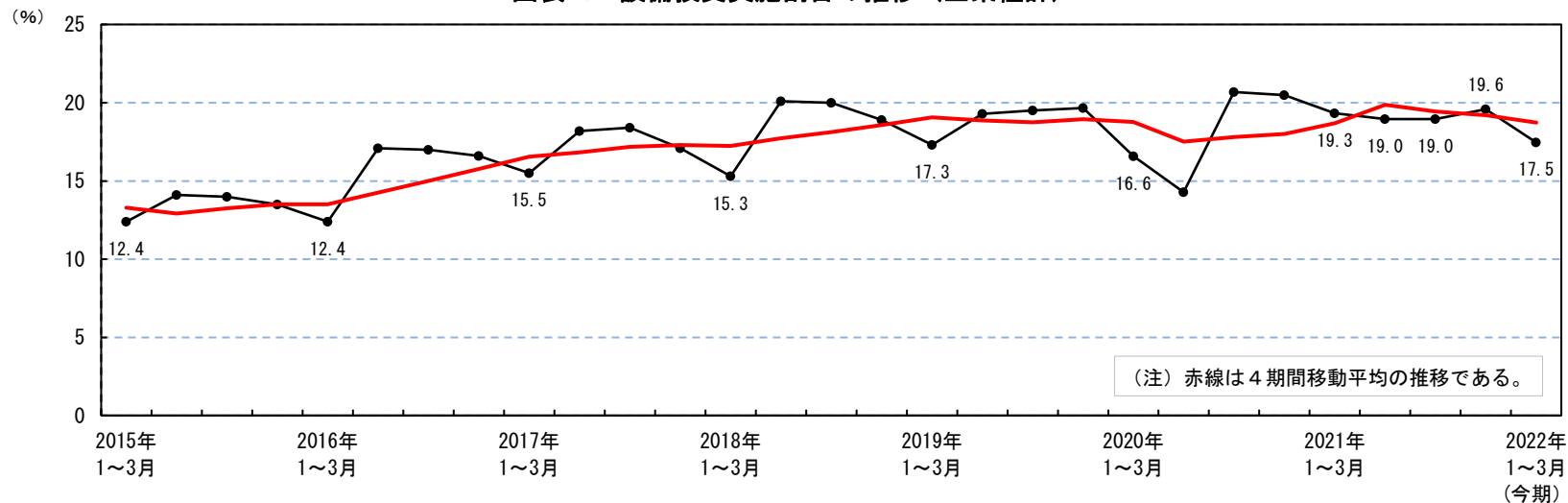
凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 44.2	▲ 39.3	▲ 44.2	▲ 23.1	▲ 27.0
そば・うどん	▲ 36.3	▲ 32.6	▲ 38.3	▲ 18.6	▲ 21.4
中華料理	▲ 48.5	▲ 43.0	▲ 46.9	▲ 28.0	▲ 35.3
す し	▲ 44.9	▲ 48.9	▲ 52.3	▲ 24.3	▲ 28.6
料 理	▲ 45.6	▲ 32.6	▲ 41.5	▲ 10.9	▲ 27.7
喫 茶	▲ 33.1	▲ 29.0	▲ 26.7	▲ 18.4	▲ 15.7
社 交	▲ 46.4	▲ 45.0	▲ 47.6	▲ 36.8	▲ 32.3
その他飲食	▲ 48.4	▲ 40.2	▲ 48.4	▲ 22.3	▲ 27.3

## II 設備投資の動向

### 1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2022年1～3月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から2.1ポイント低下し、17.5%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く）

凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	27.1	30.1	25.6	29.1	27.7
水 雪	12.5	12.1	8.6	8.6	9.1
理 容	10.9	12.5	9.8	11.3	10.6
美 容	16.1	16.2	12.8	12.2	11.3
映 画 館	33.9	19.0	25.8	25.4	25.0
ホテル・旅館	48.3	35.6	44.6	49.7	44.0
公衆浴場	33.9	39.1	31.9	31.3	31.9
クリーニング	14.3	12.9	17.6	13.7	13.9

図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移

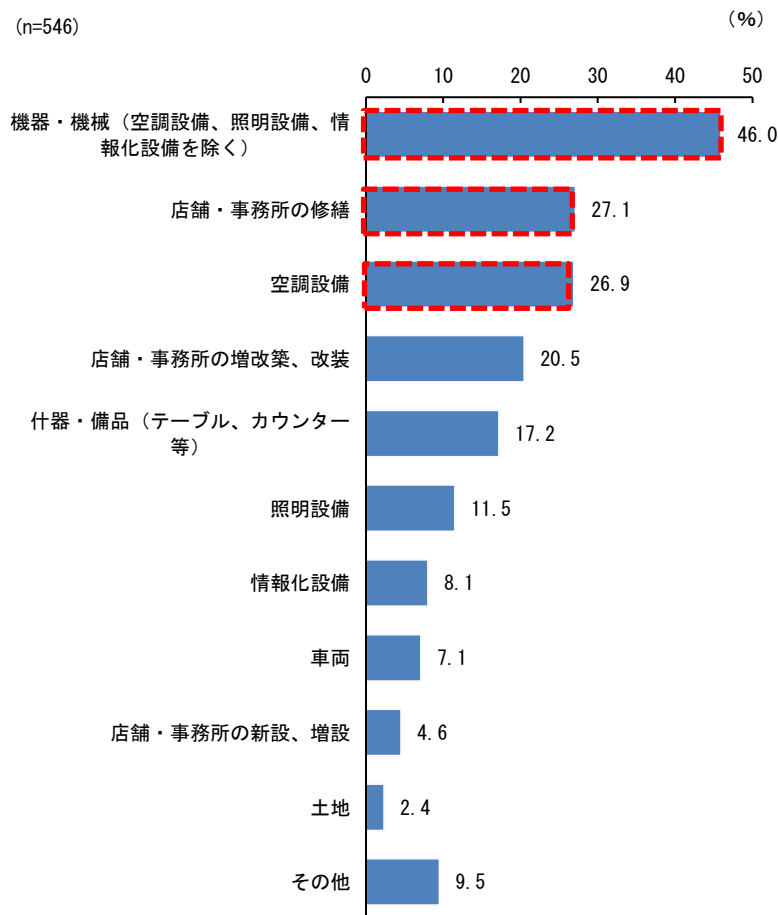
凡例	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	17.9	18.1	19.0	19.9	16.5
そば・うどん	16.8	21.1	21.7	19.8	16.2
中華料理	13.9	19.4	16.9	19.1	11.1
す し	21.2	18.2	15.5	19.7	21.7
料 理	22.4	19.9	19.8	27.5	24.6
喫 茶	21.7	12.9	13.9	17.1	14.4
社 交	11.8	12.6	17.8	13.7	7.5
その他飲食	18.4	20.3	22.5	21.8	18.6



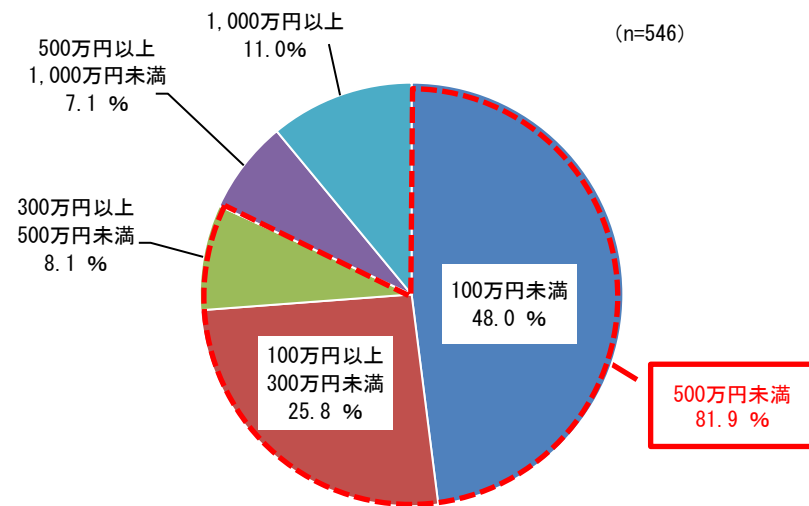
## 2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2022年1～3月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が46.0%と最も多く、次いで「店舗・事務所の修繕」（27.1%）、「空調設備」（26.9%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の8割超を占めた。
- 来期（2022年4～6月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が11.5%となった。

図表19 設備投資の内容  
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合  
(飲食業を除く)

凡例	2022年 4～6月期の予定 (%)
全業種計	11.5
食肉・食鳥肉	18.9
氷雪	14.5
理容	6.4
美容	6.8
映画館	20.0
ホテル・旅館	35.2
公衆浴場	26.5
クリーニング	5.0

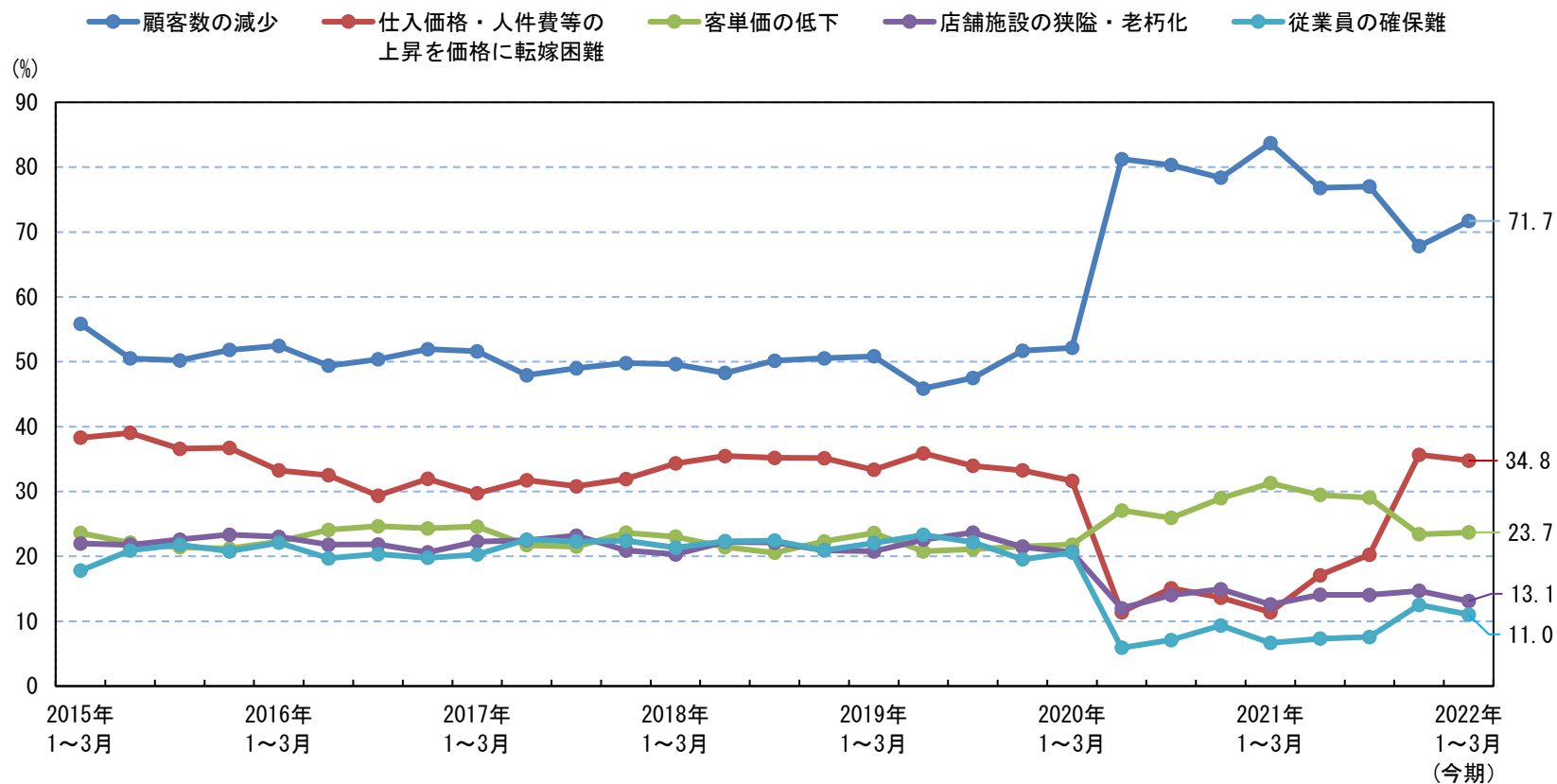
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合

凡例	2022年 4～6月期の予定 (%)
飲食業(全体)	10.2
そば・うどん	12.7
中華料理	9.8
すし	8.0
料理	14.6
喫茶	8.8
社交	4.8
その他飲食	11.6

### Ⅲ 経営上の問題点

○ 経営上の問題点は、「顧客数の減少」が71.7%、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が34.8%となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2022年1～3月）

(%)

項目	顧客数の減少	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	客単価の低下	店舗施設の狭隘・老朽化	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	71.7	34.8	23.7	13.1	11.0	4.9	3.0	7.1	4.9
飲食業(全体)	75.2	45.8	19.8	7.9	11.4	4.3	3.3	7.7	3.3
そば・うどん	68.2	58.4	16.2	10.4	9.8	5.8	1.2	5.8	4.6
中華料理	71.9	50.3	23.5	9.8	9.8	6.5	3.3	3.3	4.6
すし	73.7	57.1	18.3	6.3	6.3	5.1	2.3	7.4	5.1
料理	83.8	46.2	16.9	8.5	15.4	3.1	2.3	4.6	0.8
喫茶	72.5	52.5	14.4	12.5	10.6	4.4	1.3	3.8	4.4
社交	84.4	21.0	21.5	2.7	15.6	3.2	8.1	12.4	3.2
その他飲食	74.2	42.8	22.8	7.2	11.9	3.5	3.7	10.5	1.9
食肉・食鳥肉	37.1	58.5	19.5	20.1	18.9	6.9	2.5	3.1	6.3
氷雪	69.1	16.4	43.6	10.9	7.3	10.9	3.6	12.7	0.0
理容	70.2	12.5	27.4	14.2	8.0	6.1	0.9	8.5	11.8
美容	74.1	13.0	27.8	12.8	12.8	6.2	2.1	7.9	7.3
映画館	78.3	30.0	3.3	31.7	15.0	3.3	8.3	8.3	1.7
ホテル・旅館	77.5	29.7	22.0	18.1	17.0	3.8	7.7	4.9	1.1
公衆浴場	54.0	32.7	7.1	56.6	5.3	5.3	1.8	4.4	4.4
クリーニング	74.5	45.2	42.9	9.7	4.2	2.3	1.9	3.9	1.9

(注) 複数回答(2つ以内)のため合計は100を超える。

## IV 業況判断理由

今期：2022年1～3月 来期：2022年4～6月

### (1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	静岡県	1月中旬までは、新型コロナウイルスの感染者数が少なかったことで、人の動きが多く業況も良かったが、オミクロン株による感染者が日々増加してきたことで、夜のお客さまが減少した。
	悪化	神奈川県	時短営業や酒類の提供禁止が続いたため、自宅での飲食が主体となり、わざわざ店舗に出向く人が減ってしまったと感じる。
来期	好転	山形県	3回目のワクチン接種が進むことでオミクロン株の流行が収まり、春の行楽シーズンで外出機会が増えてくれば、客足の戻りが十分期待できる。
	悪化	滋賀県	収入が増えず、経済的に困っている人が増えてきている。原油価格の高騰などにより、各種物価も上がると予想されるため、厳しさは変わらないと思う。

### (2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	茨城県	大学の前に店舗があるが、学生が外食しなくなるなど、コロナ禍で業績が悪化したまま回復しない。
	悪化	広島県	配達やテイクアウトの売上は少しずつ増えているものの、オミクロン株の流行により回復しつつあった店内飲食の売上が落ち込み始めている。
来期	不変	岩手県	長引くコロナ禍で、企業や役所等の宴会需要が少なくなっているため、個人客が中心で、客単価は低いままである。
	悪化	福井県	GOTOキャンペーンなどの再開の見込みがたたず、厳しい状況が続くと思われる。

### (3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛媛県	前年同期は、時短営業や休業を余儀なくされたが、当期は通常営業ができており、好転の兆しが見え始めてきた。
	不変	富山県	少しずつ県外からのお客さまが増えているが、現状維持である。
来期	好転	鹿児島県	オミクロン株の流行が落ち着き、好転することを期待したい。ただ、コロナ禍以前の状況に戻ることは期待できないため、新しい形の営業を模索している。
	不変	秋田県	店舗が観光地にあるため、観光客の動向次第になる。また、燃料費や原材料の値上がりが続き、値上げを検討せざるを得ない。

### (4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	静岡県	4名以上の団体客をメインに営業してきたため、お客さまが戻って来ておらず、予約も少ない。
	悪化	福岡県	オミクロン株の流行に伴い、団体予約は全てキャンセルとなり、新規の団体予約も入ってこない。
来期	好転	高知県	3回目のワクチン接種が進み、経口治療薬の処方に目途がついたとの報道もあるため、来期は企業の歓迎会や花見等のイベント需要に期待している。
	悪化	兵庫県	コロナ禍で外出機会を減らすことが習慣化し、来客が見込めない。改善策すら見出せない。

## (5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	埼玉県	神社仏閣に近い商店街に店舗があるため、緊急事態宣言が解除された後は、観光客の来店が増加。レトロ喫茶ブームに乗って、売上を伸ばすことができた。
	悪化	山口県	年末年始は、初詣や帰省で町全体が賑やかだったが、オミクロン株の流行により来客が減った。
来期	好転	岡山県	コロナ禍が落ち着けば、客足が回復し、珈琲豆の挽売り需要も増すと思う。
	悪化	愛知県	在宅勤務を推進する企業が増えたため、朝のモーニング需要が減少している。ランチの客足も離れており、業況はさらに厳しくなる見通し。

## (6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	徳島県	オミクロン株の感染者数が増加しているため、外出を控えている人が多い。
	悪化	沖縄県	お客さまが減少したうえに、短時間で帰るので、客単価も減少した。
来期	不変	青森県	接待需要は枯渇しており、現状維持が精一杯。コロナ禍が落ち着けば、出張客が増えて活気が出てくると思う。
	悪化	北海道	オミクロン株の流行により、イベントは中止・縮小傾向で、観光客の回復は見込めない。営業時間の短縮もしばらく続きそうで、業況は悪化する見通し。

## (7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	富山県	コロナ禍の影響で団体客の来店は減ったが、少人数で飲食するお客さまが増えつつある。
	悪化	徳島県	保育園などでクラスターが発生し、平日の主婦の来店が減った。また、土日祝日も家族連れの来店が減少し、業況は悪化した。
来期	好転	長野県	新型コロナウイルスの流行が収束に向かっているならば、歓送迎会や花見等のシーズンとも重なるので、客足も戻るのではないかと期待している。
	悪化	鹿児島県	家飲みが定着し、外食に億劫な人が増えているので、歓送迎会の季節だが、外食の自粛が続くと思われる。

## (8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	千葉県	オミクロン株の流行によって卸売部門の売上は悪化した、小売部門の売上はテイクアウトを中心に好調。
	悪化	埼玉県	取引先の飲食店等の休業・廃業が相次ぎ、売上に大きく影響が出ている。
来期	好転	茨城県	3回目のワクチン接種が進み、コロナ禍が収束すれば、卸売部門の売上の回復が期待できる。
	悪化	北海道	仕入価格の上昇や原油高による諸経費の値上がりが続く見通しだが、価格転嫁が困難であるため、業況は悪化すると思う。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	神奈川県	卸売部門の売上が回復傾向にあり、店頭販売なども順調で、前年同期に比べて業況は良い。
	不変	静岡県	オミクロン株の流行で、飲食店が時短営業になり、卸売部門の売上が落ち込んだ。
来期	好転	広島県	卸売部門の売上は減少する見通しだが、経費削減と販売価格の値上げ等を計画しており、利益率の改善が期待できる。
	不変	岡山県	コロナ禍の収束が見えず、仕入原価や経費の高騰が続くため、業況の回復は見込めない。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	コロナ禍の影響は昨年に比べて少なく、飲食店からの受注が増えてきた。
	悪化	神奈川県	取引先の飲食店が次々に休廃業し、売上は悪化している。
来期	好転	奈良県	同業他社の廃業により新規の取引先が増えた。また、冷凍物の配送に必要なドライアイスの需要が増加する見込み。
	悪化	高知県	夕方以降は飲食街の人出が少なく、好転の兆しは見えない。元の状態に戻るのは、まだ先の話になる。



## (11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛媛県	新型コロナウイルス感染者数が落ち着いたため、お客さまの来店回数が増えている。
	悪化	沖縄県	来店サイクルの長期化により、客数の減少が続いている。
来期	好転	千葉県	近隣でマンション建設が進んでおり人口の増加が予想されるため、新規顧客の来店が期待できる。
	悪化	山形県	高齢者を中心に来店サイクルは延びており、今後さらに業況が厳しくなるのではと心配している。

## (12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	島根県	客数は減ったが、サービス内容や店販品の見直しにより客単価が上がり、利益は好転している。
	悪化	宮城県	景気が低迷していることに加え、コロナ禍の影響で、主婦層の行動が慎重になっている。
来期	好転	三重県	入学式の着付け予約がちらほら入ってきており、昨年並みになればと期待している。
	不変	兵庫県	新規顧客はあまり望めない状況だが、業歴が長いいため固定客数に変動はなく、現状維持は見込める。

### (13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好調	静岡県	アニメ映画「呪術廻戦」の大ヒットにより、動員が増加した。
	不変	千葉県	映画の作品数は回復しているが、メインの客層である年配のお客さまが、オミクロン株の流行で外出を控えている印象がある。
来期	好転	愛媛県	感染拡大が収束していけば、人流が増え、春の新作への観客動員も増えると思う。
	不変	岐阜県	話題作が控えており、昨年並みの観客動員を期待している。

### (14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	長崎県	観光客や団体のお客さまが減少したため、長期滞在者やビジネス客の集客に力を入れた。
	悪化	栃木県	オミクロン株の流行により、出張の宿泊予約が激減している。また、全体的に消費マインドが低下し、テレワーク等の利用者も増えない。
来期	好転	福島県	新型コロナウイルスの流行が収束すれば、ゴールデンウィークに向けて旅行の需要が高まるため、好転が見込める。
	悪化	鳥取県	新型コロナウイルスの流行で、キャンペーン等は停止になった。まん延防止等重点措置の影響で、予約も入ってこない。地域性もあり、新型コロナウイルスの感染者が出ると、客数が激減してしまう。

### (15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛知県	年配者の来店は回復傾向。また、サウナブームによって若者客の増加がみられた。
	悪化	千葉県	急激にオミクロン株の感染が拡大したため、警戒心からか、利用者が減り始めている。
来期	好転	富山県	3回目のワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染者数が減少すれば、好転が期待できる。
	悪化	山梨県	長引くコロナ禍により、入浴客は減少。さらに、燃料費等の値上がりが続いており、経営状況は悪化すると思う。

### (16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	埼玉県	個人客から企業（工場等）へシフトし、一定の受注が確保できたため、業況は不変。
	悪化	宮崎県	コロナ禍で新年会等の行事が減り、外出用の服を着る機会が減ったため、受注が減少した。
来期	好転	青森県	ダウンやコートなどの冬服の衣替え時期であり、需要の拡大と単価アップを期待している。
	悪化	広島県	働き方が在宅勤務に変わり、従来は定番であったワイシャツやスーツなどのビジネス服の需要が激減し、回復が見込めない。